【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公表番号】特表2001-500034(P2001-500034A)
【公表日】平成13年1月9日(2001.1.9)
【出願番号】特願平10-512524
【国際特許分類第７版】
　Ａ６１Ｃ　17/00
　Ａ６１Ｂ　17/24
【ＦＩ】
　Ａ６１Ｃ　17/00　　Ｔ
　Ａ６１Ｂ　17/24

【手続補正書】
【提出日】平成16年8月27日(2004.8.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】補正の内容のとおり
【補正方法】変更
【補正の内容】

手　続　補　正　書（自発）

平成１６年８月27日

特許庁長官　殿

１．事件の表示

平成１０年　特許願　第５１２５２４号

２．補正をする者

事件との関係　特許出願人

住所　ドイツ、ベルリン　デー１３６２７、シュティーフリンク１４

名称　ワン　ドロップ　オンリー　ケーミッシュファーマツォイティッシェ　バートリープス　ゲーエムベーハー

３．代　理　人

住所　（〒104-0043）
東京都中央区湊１丁目８番１１号千代ビル６階
電話 03-3552-0221（代表）

氏名　７１０５　弁理士　木　村　高　久

４．補正対象書類名

明細書

５．補正対象項目名

特許請求の範囲の欄、および発明の詳細な説明

６．補正の内容

（１）本願の特許請求の範囲（平成１１年３月５日提出の特許請求の範囲の翻訳文）を別紙のとおりに訂正する。

（２）本願明細書（平成１１年３月５日提出の明細書の翻訳文）の第３ページ第２９行から第４ページ第４行に記載の「　図３ａに示すこの発明に係る器具の他の好ましい実施例によれば、掻き縁は第２の側面３０と腹部面３２の延長部で形

成される峰部により形成され、この峰部は側面３０から上方に突出し弓部のアーチ形状に沿って延びる。峰部は側面３０から１－３ｍｍの範囲で上方に突出してもよい。峰部の上縁は使用に際して切り傷をもたらさないように丸められる。」を下記のように訂正する。

「　図３ａに示すこの発明に係る器具の他の好ましい実施例によれば、掻き縁は第２の側面３０と腹部面３２の延長部で形成される峰部３７により形成され、この峰部３７は側面３０から上方に突出し弓部のアーチ形状に沿って延びる。峰部３７は側面３０から１－３ｍｍの範囲で上方に突出してもよい。峰部３７の上縁は使用に際して切り傷をもたらさないように丸められる。」

特許請求の範囲

１．ハンドル部材（１６）と、該ハンドル部材（１６）に結合する清浄部（１２）とを有し、該清浄部（１２）は、ほぼ直線状かわずかに弓状かあるいはＵ字形状の弓形をなし、これにより腹部面（３２）及び背部面（３４）が形成されたものであり、かつ、前記清浄部（１２）は第１の側面（２８）を具えるとともに掻き縁（３６、３７）を具え、前記第１の側面（２８）には、２列以上の上向きに突出する剛毛部（２６）が配設され、口腔内、特に舌、を清掃する口腔清浄器具において、

前記清浄部の頭部（１２）には第２の側面（３０）が形成され、

前記第１の側面（２８）と前記第２の側面（３０）は、それぞれ、凸面に形成され、これにより概して葉巻状の頭部になるようにされており、

また前記第２の側面（３０）は掻き縁（３６、３７）を画成するようにしたことを特徴とする口腔清浄器具。

２．前記剛毛（２６）は８ｍｍ（ミリメートル）までの高さか、好ましくは３ｍｍの高さを有するようにしたことを特徴とする請求項１記載の口腔清浄器具。

３．剛毛の束は異なる硬度にして利用されるようにしたことを特徴とする請求項１から請求項２のうちのいずれか一つ記載の口腔清浄器具。

４．前記第１の側面（２８）は剛毛（２６）を備えていない領域を有するようにしたことを特徴とする請求項１から請求項３のうちのいずれか一つ記載の口腔清浄器具。

５．前記掻き縁は、前記第２の側面によって形成されかつ腹部面（３２）の延長部に形成された峰部（３７）によって画成され、

前記峰部（３７）は、前記第２の側面（３０）から上方に突出しており、そして前記弓部のアーチ形状に沿って伸びていることを特徴とする請求項１から請求

項４のうちのいずれか一つ記載の口腔清浄器具。

６．前記峰部の上縁は、使用に際して舌に切り傷をもたらさないように丸められていることを特徴とする請求項５記載の口腔清浄器具。

７．前記峰部は、約１～３ｍｍ（ミリメートル）の範囲内で前記第２の面から突出していることを特徴とする請求項５から６のうちのいずれか一つ記載の口腔清浄器具。